

《担当者名》吉田晋 ysdssm@hoku-iryu-u.ac.jp 坂上哲可 tsakaue@hoku-iryu-u.ac.jp

**【概要】**

神経科学や制御工学といった隣接科学の進歩を背景に、リハビリテーションの方法論も大きく変化してきている。特に神経科学を背景としたニューロリハビリテーションやロボティクスを用いたアプローチの進歩は著しく、近年神経系の可塑性を促進する様々な方法やリハビリテーション機器が開発されている。しかしながらその適応や効果など未解明な点も多く、確かなエビデンスは得られていない。本特講ではこうした最新のリハビリテーション手法についてレビューし、ディスカッションを通じて理解を深め、リハビリテーションの可能性を検証する。

**【学修目標】**

1. 神経科学領域の論文を抄読し、レビューができる。
2. ニューロリハビリテーションの手法や効果の範囲について説明ができる。

**【学修内容】**

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	文献レビューの進め方等について説明する。	吉田晋
2 ) 15	神経科学領域の文献抄読	文献レビューおよびディスカッション	吉田晋 坂上哲可

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

授業内でのプレゼンテーション50%、ディスカッションでの発言内容50%により総合的に評価する。

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考書】**

授業の中で適宜紹介する。

**【学修の準備】**

関連分野の文献等を各自調査し学習すること。

予習では、文献検索・分析とプレゼンテーションの準備をしておくこと（80分）。

復習では、質疑応答の内容および担当教員の助言を整理すること（80分）。

**【実務経験】**

吉田晋（理学療法士） 坂上哲可（作業療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

病院での臨床経験をもとに講義を行う。